

市民活動状況

市内NPO法人数	33 団体
当センター登録団体数	151 団体
当センター登録会員数	6,913人
9月来館者数	110人
9月印刷機利用枚数	9,466枚

ひびき



発行枚数 650枚 メール配信 100団体

発行人 指定管理者NPO法人茨城県南生活者ネット 龍ヶ崎市市民活動センター長 島村宏之

龍ヶ崎市市民活動センターは社会貢献活動を行う団体を支援するための施設です。

会議スペース・作業スペース・印刷機・紙折り機・パソコン・多目的室等(1階)や

大会議室・小会議室・パソコン室・和室・工作室(2階)・陶芸室(1階外倉庫隣り)がご利用いただけます。

開館時間 = 午前9時～午後7時(日曜祝日は午後5時まで)2階各室は夜間も(午後10時まで)利用可能です。

休館日 = 月曜日および年末年始、特別に定める日

〒301-0004 龍ヶ崎市駒馬町2445 TEL 0297-63-0030 / FAX 0297-63-0571

E-mail r-suwan@titan.ocn.ne.jp URL http://r-shimin.sakura.ne.jp/



市民団体活動紹介シリーズ 3

目指せ！市民活動日本一

こんにちは ユーアンドアイさん 佐藤真智子代表
コロナ禍での活動、お変わりありませんか？



「ユーアンドアイ」は市民活動フェア常連の参加団体。協働事業推進審査員。龍ヶ崎・NPO活動(福祉)のパイオニア。事業規模NO. 1。

現在の事務所は奈戸岡。知人とのご縁で獲得した居場所は、山林に囲まれた静かで風光明媚な場所。

年をとっても障害を抱えても、誰もが住みなれた地域で暮らし続けることが出来る、新しいふれあい社会を目指し、富士見幼稚園近くで福祉ステーションを展開しています。

代表の佐藤様は約35年前に龍ヶ崎に移り住み、仲間との交流の中から様々な福祉事業の研究と新たな挑戦を繰り返しています。

事業の内容は

- ① たすけあい活動(有償ボランティア)・・・外出支援(福祉有償運送)、子育てサポート、生活支援
- ② 介護ステーションいきいき事業、ぱれっと放課後預り・休日活動
- ③ 訪問介護事業
- ④ 放課後等デイサービス事業
- ⑤ 特別支援教育支援事業(龍ヶ崎市受託事業)
- ⑥ 地域交流事業

広報紙「ハローユーアンドアイ」は年4回発行しています。

* ①のたすけあい活動は現在協力者が少なく、活動が出来ない状況です。高齢者がさらに増え、行政支援に「限り」が見えてきた今日、これから取り組むべき課題は山ほど・・・ご苦勞を苦勞と思わない毎日をお過ごしのように。見学とおしゃべりは延々と2時間。前に前に・・・遣り甲斐に明け暮れる毎日。暇ができたなら市民活動センターにおしゃべりに来てくださいな



秋の星空観察会開催のご案内

「土星の環を見よう」星空観察会を開催します。

- 開催日: 11月14日(日) 午後5時半～7時
- 場所: 市民活動センター駐車場
- 講師: 天体写真家 田中千秋先生
- 募集: 定員25人
- 参加費: 300円/1人(保険代・資料代)
- 申し込み: 電話にて 0297-63-0030 (11月5日より受付)

※小学生以下は保護者同伴、雨天・曇天の場合は室内で「秋の星座とギリシャ神話の話」



「成熟期のニュータウンにおける居住環境の変化とその要因～竜ヶ崎ニュータウン松葉・長山地区の事例」講座

筑波大学生命環境系人文地理学研究室では、昨年11月から龍ヶ崎市内の松葉・長山地区で居住者アンケートやヒアリングをはじめ、地理学的なフィールドワークを実施してきました。人文地理学の手法を用いて、成熟期における郊外住宅地の居住環境の実態と経年的な変化、そしてその要因を分析し、考察してきましたので、松葉・長山地区の調査結果について報告するものです。

竜ヶ崎ニュータウンの将来を考える際のヒントになるとと思いますので、ニュータウン在住の方々には必聴です。

特に、アンケートに答えていただいた方々やヒアリングにも応じていただいた皆様方にはぜひ、この調査報告をお聴きいただければと思います。

2021年11月21日(日)13:30～15:30

- ・主催:龍ヶ崎市市民活動センター、比較住宅都市研究会
- ・共催:竜ヶ崎駅前コムハウス
- ・募集人数:25名(申込、先着順)
- ・参加費:無料
- ・申込・問合せ:龍ヶ崎市市民活動センター(電話0297-63-0030)
受付開始しています(月曜休館)



講師:筑波大学生命環境系 助教
久保 倫子氏

龍ヶ崎ヒストリー第8回「頼政神社」

源頼政は平安時代末期の武将で、清和源氏でありながら平家政権で中核をなし、平清盛からも信頼篤く、源氏としては突出した従三位の地位を得ていて、源三位と呼ばれていました。しかし、頼政は平家の専横ぶりに怒りをおぼえ、平氏打倒を呼びかける以仁王(モチヒトオウ-後白河天王の子)と共謀し、平氏打倒を計画します。こうして治承4年(1180)「宇治平等院の戦い」が勃発しますが、計略は露見し、以仁王と頼政は不利な戦いを強いられました。この戦いで頼政は敵方に追い込まれ自害、以仁王は敵に打たれ戦死と記録されています。

以仁王の反乱は失敗に終わりましたが、源頼朝を中心とした打倒平家に火が付き、そして俗に源平合戦と呼ばれている6年にも及ぶ内乱「治承・寿永の乱」(1180-85)が始まりました。

この戦いで、源頼政を崇敬する下河辺政義は頼朝に従って勝利を収めます。その恩賞として頼朝より本拠地の古河他常陸国南部の地を与えられました。その中には龍ヶ崎も含まれています。

古河に源三位頼政を祭神とする頼政神社が所在しますが、これは下河辺によって建立されたのではないかと?そして下河辺はその後、龍ヶ崎のまちづくりに着手しますが、龍ヶ崎の頼政神社は、古河より分祀されたと思われませんが、その経緯は分かっていません。

現在の頼政神社は神木に守られた形の小さな祠ですが、明治初期まではりっぱな社殿があり、多くの参拝者が訪れたといえます。

なお、伝説では頼政が自害する時「吾が首を東国に運んでくれ。吾が止まらんと欲するところに行き当たれば、首が重くなる。そこに吾が首を葬ってくれ。」と家臣に遺言を託します。さて、家臣はいわれたとおり、首を東国に運ぶと、突然馬が動かなくなるほど首が重くなり、そこに首を葬った。この伝説が頼政神社の由縁となっています。



龍ヶ崎短歌会

収穫の時期を逃して割れたる実虫と分け合う小玉スイカは
女とふ歴代クローンに連らなれるかほかほかの女孫に似るか

高藤 朱美
津幡 昭康